

2022年2月16日

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ
株式会社三菱UFJ銀行
三菱UFJ信託銀行株式会社
三菱UFJ証券ホールディングス株式会社
三菱UFJニコス株式会社
アコム株式会社

水素を燃料として走行する燃料電池バス運営事業者への寄付について

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ（代表執行役社長 ^{かめざわ ひろのり} 亀澤 宏規、以下 MUFG）は、今般、水素を燃料として走行する燃料電池バス^[1]の普及に向け、東京都交通局、大阪シティバス株式会社（以下 大阪シティバス）、南海バス株式会社（以下 南海バス）に対して、グループ5社^[2]より寄付を実施いたしました。

MUFGでは、燃料電池バスの導入を推進する東京都交通局ならびに大阪府の「令和3年度 燃料電池バス導入促進事業費補助金^[3]」の交付決定を受けた大阪シティバス、南海バスの3社に対して6年間で総額約2億円（企業版ふるさと納税による大阪府への寄付含む^[4]）の寄付を実施し、各バス事業者は2022年3月までに合計3台の燃料電池バスの導入を予定しております。

運営事業者等	運行開始予定	運行エリア・路線（予定）
東京都交通局	2月中旬	都05系統（東京駅丸の内南口～東京ビッグサイト）
大阪シティバス	3月下旬	住之江営業所管内（大阪市南部）
南海バス、関西エアポート株式会社	3月中旬	関西国際空港内 （第1ターミナルビル～展望ホール他）

現在、日本では水素社会実現に向けた取り組みが進められており、その中で燃料電池バスは、脱炭素に寄与しながら、安定した水素需要を創出する商用車として導入が期待されています。

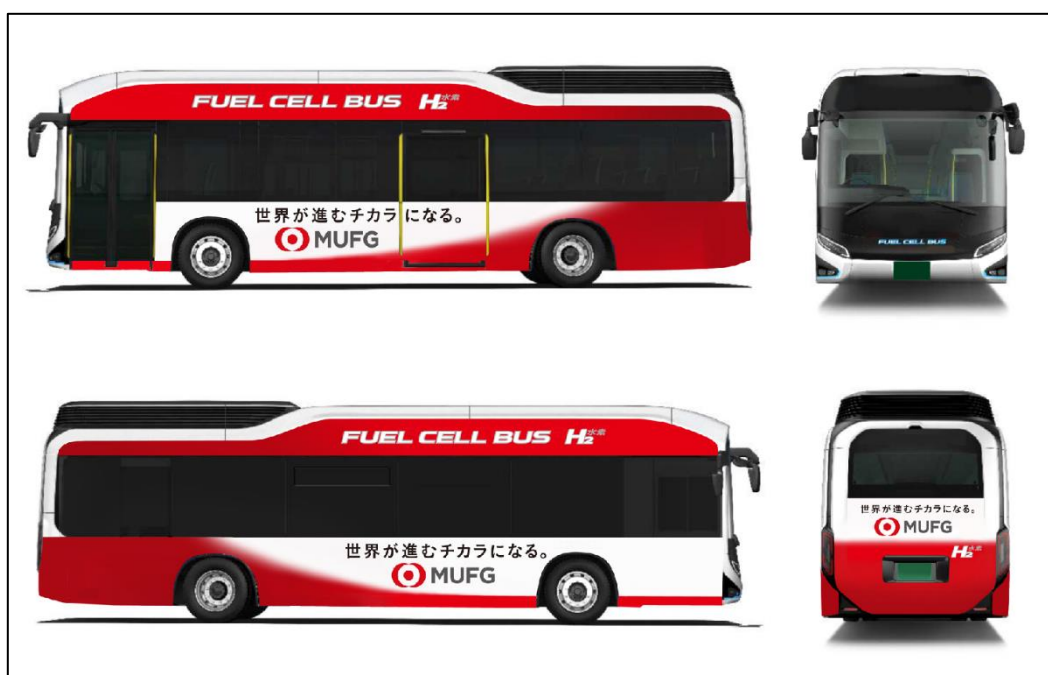
東京都交通局への寄付は、東京都の補助金と民間企業からの寄付を活用して燃料電池バスを導入する初の試みとなります。

また、大阪府内を走行する燃料電池バスの導入は今回が初めてとなり、2025年に予定する大阪・関西万博の開催に向けて次世代エネルギーとしての水素の利活用が期待される中、今回の取り組みが今後の水素の普及に向けた第一歩になると考えています。

MUFGでは、自社のパーパス（存在意義）を「世界が進むチカラになる。」と定め、全てのステークホルダーが次へ、前へと進むチカラになること、そのために全力を尽くすことを企業活動の指針としています。また、サステナビリティ経営の高度化を図るうえで優先的に取り組む10課題を特定しており、「水素・次世代エネルギー」は、気候変動対応・環境保全分野における重点領域に位置づけています。

MUFGは今回の燃料電池バス導入への支援を皮切りに、今後も水素サプライチェーンの構築、ならびにその先にある持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

【導入予定の燃料電池バス（イメージ）】



^[1]水素と空気中の酸素の化学反応によって発生する電気によってモーターを駆動させ走行するバス。走行時にCO2や環境負荷物質を排出しない。

^[2]株式会社三菱UFJ銀行、三菱UFJ信託銀行株式会社、三菱UFJ証券ホールディングス株式会社、三菱UFJニコス株式会社、アコム株式会社

^[3]令和3年度 燃料電池バス導入促進事業費補助金（大阪府）については、以下のリンクをご参照ください。
<https://www.pref.osaka.lg.jp/energy/fcbus/index.html>

^[4]MUFGは大阪府が実施する「令和3年度燃料電池バス導入促進事業費補助金」に対して、2021年7月に企業版ふるさと納税を活用して5,325万円寄付しています。詳細は以下のリンクをご参照ください。
https://www.mufig.jp/dam/pressrelease/2021/pdf/news-20210714-001_ja.pdf

以上